

# コミュニティビジネスが生む 地域の支え合い仕組みづくり事業 について

(社)高知県自治研究センター

## はじめに

### 研究の背景たる中山間地域の現状

現状は

- 高齢化の進展・若者の流出・コミュニティの希薄化(高齢者の孤立)・JA合併・地元商店の廃業 etc.

課題として

- 物流との接点を失い、作物を育てる元気はあるのに自分で作ったものを出荷できない
- 出荷をあきらめている高齢者の姿 (近所に配り、さらに残ったら捨てる・耕作を止める等)
- 高齢者たちの地道で丹念な生産性が生かせない

研究で

- この課題解決の仕組みを探り、制度設計するのが目標
- 直売所への出荷をサポートする「庭先集荷」を黒潮町内で実施し、高齢者に稼いでもらっている

### 研究テーマとなる仮説と目標

仮説

農作物を作る元気はあるが、出荷の術がなくあきらめている方たちをサポートする

生きがいを見出してもらい、健康で元気のある「人」と「地域」を維持・継続する

直接効果=生きがいづくり・健康余命の延長  
間接効果=医療や介護など社会的コストの抑制

社会的コストの削減が可能な仕組みには、社会的コストの本来的な財源の投資も可能

目標：新たな公共サービスの提案



## 産業 ≠ 福祉 ?

### “福祉”と“産業”の関係

- 既存の福祉サービスは、高齢者は弱きものという前提
- 心身が虚弱化してから受給することができるサービスが大勢
- サービス利用の要件が、要介護度や生活困窮など、いわゆる「否定的」なもの
- 金の回る仕組み(産業)だが、儲けているのは高齢者自身?
- これは福祉が産業となるカタチ

福祉産業

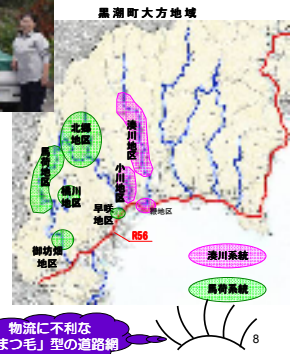
- 高齢者は弱きものではなく、知識や技能を持っている重要な人材・人財
- 農作業ができる元気があるからサービスを利用できるという「肯定的」な側面が要件
- 高齢者が仕組みの一部となり、「儲け」「楽しみ」「元気となる」営み
- 産業活動=「小金稼ぎ」が、福祉的效果=「元気・生きがい」をもたらすというカタチ

産業福祉

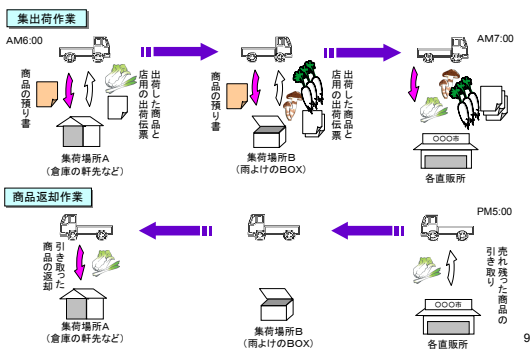
# 黒潮町での 庭先集荷サービス について

## 庭先集荷サービスの実施状況

- 「地域を元気にする  
コミュニティ・ビジネスを考  
えるワークショップ」  
で出会った田辺さん  
夫妻の協力
- 山間部である湊川、馬荷地区を  
中心にサービスを展開
- 集荷サービスを続ける中で、少  
しずつ対象者とエリアが拡大
- 住民ニーズにあったサービスで  
あることは実証できている
- 物流に不利な「まつ毛型」の地  
形だからこそ必要とされるサー  
ビス



## 庭先集荷サービスのイメージ





## 庭先集荷の様子









### 主な研究活動（2006～2007年度）

時期	内容
2006年 5月	研究テーマの設定
2006年11月	黒潮町、仁淀川町、徳島県上勝町へ調査
2007年 3月	「地域を元気にするコミュニティ・ビジネスを考えるワークショップ」 ビジネスサポーター：田辺さんとの出会い 
2007年 8月	赤岡青果市場視察
2007年 9月	出荷者説明会及び事前アンケート ビジネスサポーター（集荷者）との契約
2007年10月	湊川・小川地区で産先集荷開始（湊川系統）
2007年11月	馬荷・御坊畑地区を開始（馬荷系統）
2007年12月	第2回アンケート調査
2008年 2月	第3回アンケート調査  国交省所管の「新たな公」へ申請

### 主な研究活動（2008年度）

時期	内容
2008年 4月	「地域の支えあいの仕組みを考えるワークショップ」 (出荷者・直売所関係者・高知大生・行政職員・町議会議員等)
2008年 5月	高知県知事へ研究内容の報告
2008年 7月	国交省「新たな公」モデル事業採択
2008年 8月	県外事例調査 
2008年 8月～11月	(宮城・福島・茨城・愛知・鳥根) 赤岡青果市場出荷者アンケート
2008年10月	区長アンケート
2008年12月	(大方地区、コミュニティ機能に関する調査) セミナーの開催（高知市）・県内事例調査 仁淀川町視察兼合宿 
2009年 2月	(2008研究のまとめと2009研究計画) 第4回出荷者アンケート調査 産直サミット参加 シンポジウムの開催（高知市）

### 主な研究活動（2009年度）

時期	内容
2009年 4月	セミナー「アメリカのファーマーズマーケットに『直売所の公的役割』を見る」（高知市）
2009年 6月	2008年度研究成果報告会（黒潮町）
2009年 7月	県外事例調査（国立市、日野市）
2009年9月	高齢者生産活動センターへのアンケート調査
2009年10月	第49回高知県精神保健福祉大会 「健康長寿をめざして」にて事例発表（高知市）
2009年11月	四国地方整備局にて事例報告
2010年 1月	新たな公共サービスを考える学習会（黒潮町） 産業振興講演会「モノを売るな！地域文化を売れ！」（黒潮町）
2010年 2月	直売所の多面的機能について考えるシンポジウム 「直売所は地域の元気の源だ！」（高知市）
2010年 3月	直売所座談会（今後の展開に向けた、売る側の意見交換会） その他 ※この間、視察・取材多数（全国農業新聞、四国新聞、NHK高知放送局、毎日7-7、高知新聞、まんこのう町、松山市、南園市、和歌山県） ※高知県運輸政策課から連携した制度構築への打診 <sup>22</sup>

産業 ≡ 福祉 ?!

地域の声  
利用者アンケートから

## アンケートの内容

**<基本的事項>**

- 地区名・性別・年齢・家族構成など

**<集荷サービスに関する質問>**

- 過去の直売所の利用実績・出荷方法
- 集荷サービスへの関心度と利用実績
- サービス利用者の変化(利用者)
- サービス料が「有料」になっても利用するか(利用者)
- どの程度なら負担可能か(利用者)
- 集荷サービスに関する要望事項など(利用者)
- 利用しなかった方の理由(未利用者)
- 今後は利用したいか(未利用者)

**<健康に関する質問>**

- 通院の頻度・毎月の医療費・病院は何軒か・通院の理由
- 過去の大きな病気やケガ
- 健康を維持するために心掛けていること
- 黒潮町(大方)で行われている町の活動への参加状況

**<日常生活について>**

- 日常生活の状況
- 生きがいや楽しみ
- 普段の交通手段
- 生活で困っていること

25

## サービスを利用して変化したこと

(2007年12月・2008年3月実施アンケートの比較)

12. 集荷サービスを利用して変化したことはありますか  
(複数回答あり)

変化の項目	12月	3月
耕作・出荷意欲が増えた	12	14
時間の余裕ができた	6	5
しやりがいが増えた	6	5
いが増えた	3	1
人とのふれあ	7	9
変化なし	1	1
その他	1	1

- 最も多かったのは、「耕作・出荷意欲が増えた」
- 積極的かつ自発的に、楽しみながら取り組む姿がうかがえる

26

## アンケート調査のなかで・・・

(その他利用者のコメント)

明日が集荷日だから、少しでも準備しようと思うようになった

計画的に畑仕事ができ、生きがいになっている

畑仕事にやる気が出た!

新しい野菜の栽培を始めた

余ったものが売れたら嬉しい! 楽しいと感じるようになった

収穫を増やしたいと思う

自分で市場に出向いて、値段を見るようになった (外出するようになった)

楽しみ・生きがい・目標・希望 ⇒ 将来への展望 27

## アンケート調査のなかで・・・

(その他利用者のコメント)

出荷することで、ご近所さんとの接触が楽しみのようになった

新しい出会いに喜びを感じる (ビジネスサポーター・高知大生や研究員など)

近くの方が出荷場所まで運んでくれるので、助かっている。つながりができた

出荷することを言ったら、夫が畑仕事を手伝ってくれるようになった

家庭・地域内・地域外 ⇒ 交流・新たなつながり 28

## 見えてきた直売所という「場」

- 直売所のイメージ
  - 安い・安心・地産地消
  - 高齢者が出品している
  - 地元の新鮮な食材がある
  - など・・・
- 単にモノを売り買いするだけの「場」ではない
- 直売所は、さまざまな多面性と多様性を持っている

29

## どのような「場」か

- 家庭にしながら収入を得られる
- 高齢になっても働き続けることができる
- 役割を持てる
- 趣味を生かせる
- 出荷者同士の交流を生む
- 生きがい・楽しみをもたらす
- 出荷できる = 農地が保全される

↓

各集落の“活力を生む”場

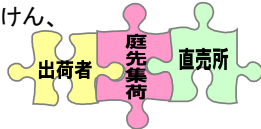
30

## 再び、アンケート調査のなかで

- 卵を出荷している方のお宅で…

「弟が脳梗塞にならんかったら、まだ出荷できたがやけど。車に乗れなくなってねえ…」

「おかげでまた出荷できました。今年は“ヒナ”も 仕入れたけん、また出しちよけんね」と、笑顔で語る兄弟



- 突如として社会と寸断された出荷者(集落)と直売所(社会・経済活動)をつないだ事例

31

## 「対話と実行」座談会のなかで

尾崎正直知事来町 2009.10.27 馬荷地区

- 出荷者:Aさん

以前は、夫に出荷してもらっていたが、**高齢になり、出荷が大変になった。**週2回の出荷の日を楽しみにしている。



近所の人たちと「いつかは、出荷の日やね。」と話をするのも楽しい。田辺さんから「今は、こんなものが出よう。」とか「値段はこのぐらい」とか、**教えてもらうのも楽しい。**

- 集荷者:田辺さん

いつも出荷をしている人が、**出荷していないときは、様子を見に行くこともある。**高齢者が、毎週2回の出荷日を確認することや、自分が作った作物の値段を決めることは、脳の活性化につながり、**認知症予防にもなっている気がする。**

生きがい対策

見守り活動・孤立防止対策

健康維持・在宅生活支援 32

産業 = 福祉 ??

33

## 庭先集荷の効果

直売所と地域をつなぐ営みがもたらすもの

- 農地保全  
(地域にいる方が耕作し続ける)
- 高齢者の小遣いが増える  
(所得保障にも繋がる)
- 集落ごとの作物が流通に乗る  
(小ロットのでも流通に乗る)
- 直売所の品揃えや売上げに貢献する(少量・多品種・)
- 伝統の農法・在来種が守られる

産業振興的效果

34

## 庭先集荷の効果

直売所と地域をつなぐ営みがもたらすもの

- 小遣いが増えることの楽しみ  
(孫の小遣い・趣味の旅行)
- 出荷日の確認や値段を決めることが脳の活性化となる
- 集荷者に会う楽しみや直売所の販売状況や社会時事などの情報交換による精神的な効果
- 農作業による身体機能維持  
(身体の健康)
- 生きがいづくり(精神の健康)

保健福祉的效果

35

## 庭先集荷の効果

直売所と地域をつなぐ営みがもたらすもの

- 在宅生活を維持  
(集落に人を残せる)
- 環境保全(ムラ・ノラ・ヤマ)
- 出荷者同士の話題が増え、地域内の接点が増える  
(地域コミュニティの形成・再生)
- 集荷者による見守り・地域内交流による相互の見守り  
(地域の安心・安全を生む)
- 田舎暮らしの可能性(IJUの促進)

地域活性化・集落維持の効果

36

